

グローバル・コミュニケーション・プログラム

目指す「グローバル」

個人の能力や特質 を 理解し尊重できる こと → 多様性の受け皿づくり

保育園から高校までの「公教育」の15年間において
グローバル教育と多様性理解に関する取組を継続的に展開し
地域における「多様性の受け皿づくり」の
基礎的な仕組みを構築する。

多様性の受け皿づくり

個人の能力と特質を
理解し尊重する

切れ目のない一貫したグローバル教育

保育園

小学校

中学校

高校

2019年度の事業展開

北陸先端科学技術大学院大学
グローバルコミュニケーションセンター(川西副学長、元山講師)の手法・ノウハウを活用する。

宮竹保育園、宮竹小学校、辰口中学校、寺井高校 をモデル校とし、
教職員、児童生徒を対象にJAISTの講師や留学生により、対象学年に応じた講演、ワークショップ等を展開する。

他の地域に先行し実施するこの取組をメディア等を通じて発信する。

期待できる効果

- ・ 市民の意識が高まり「多様性の受け皿」が地域に醸成されることで、「地域共生社会」を実現します。
- ・ この取組自体が「能美市の地域資源」となり、「能美市の魅力」がさらに高まります。